

2-4 水害時に役立つ情報・心得

情報収集の心得

インターネット等の発展により、これまでの災害教訓や緊急時に役立つ様々な防災情報が簡単に手に入るようになりました。大雨時には自ら情報収集し、避難が必要かを考えて行動しましょう。

大雨時は、自ら情報収集する意識が大切

情報収集

- 市からの防災情報
- 避難情報等に注意を! (→P13)

日常の備え

- 総合防災マップ
- 危険場所等の再確認を!

情報収集

- テレビ
- 携帯電話
- ラジオ
- パソコン
- 雨量・河川水位情報等の収集を! (→P60)

日常の備え

- 非常持出品 (→P59)
- 袋に入れて、いつでも出せる場所に置いておきましょう。

避難時の心得

市では大雨などの災害による危険がせまると、避難勧告や避難指示を発令し、市民の皆さんに避難を呼びかけます。ただし、身の危険を感じたら市からの呼びかけを待たずに避難しましょう。

避難は、「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です

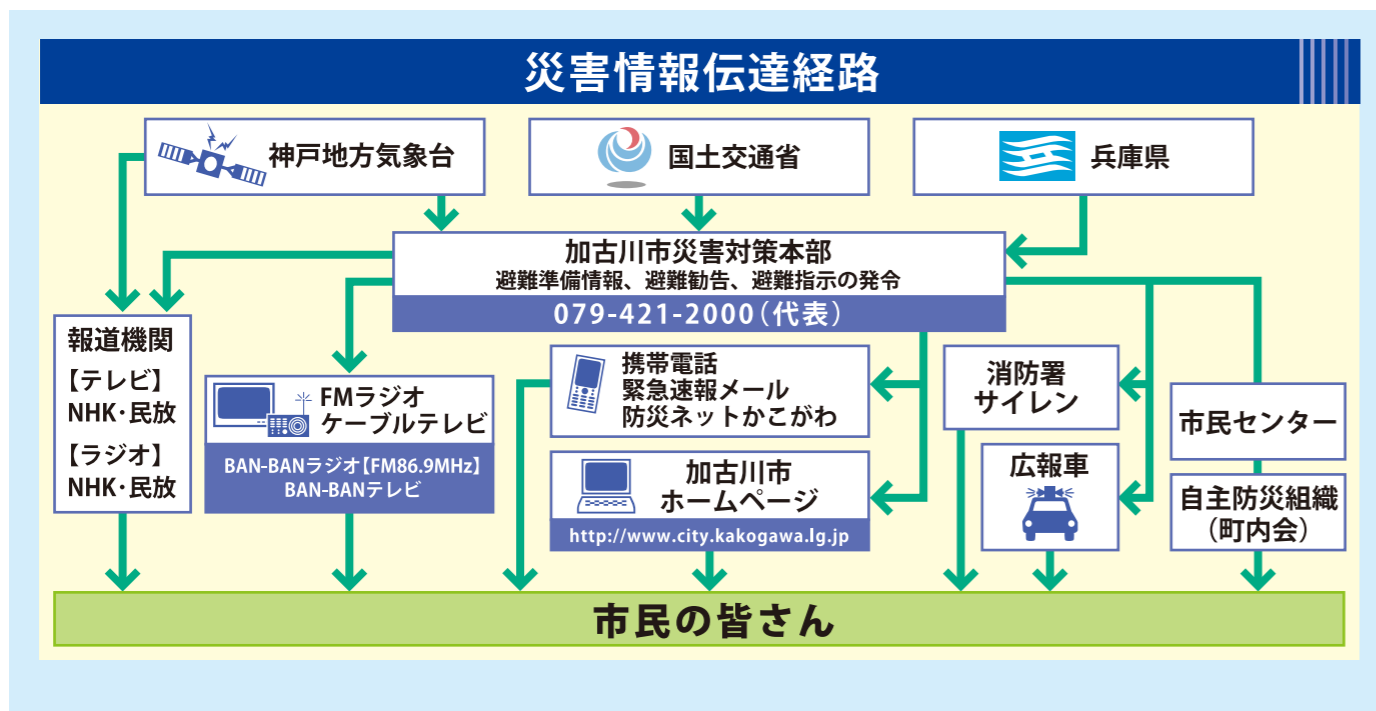
- **浸水が始まる前に避難を!**
浸水が始まると、水深が浅くても流れの速さによっては足をすくわれます。また、側溝やマンホール、水路等が確認できず転落するおそれがあります。
- **避難は自主判断で!**
気象情報や避難情報等の防災情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。
- **移動手段は徒歩で!**
車は故障したり、渋滞に巻き込まれるおそれがあります。

逃げ遅れたら

- **建物の上階へ避難**
建物の2階以上や、斜面と反対側の部屋に移動して、自分の身を守る!

その他避難時の留意事項

- **避難時は動きやすい服装で!**
特に靴は歩きやすい運動靴で。長靴は水が入るとかえって歩きにくくなります。
- **移動は二人以上で!**
一人だといざという時に助け合えません。
- **危険な場所には近づかない!**
地下道(アンダーパス)、地下空間、河川の近くは、浸水の可能性が高く、危険です。
- **夜間の避難は要注意!**
夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しておきましょう。



積乱雲(雷雲)に注意しましょう

大気の状態が不安定なときには、積乱雲(雷雲)が発達して、急に強い雨が降ったり、雷や竜巻が発生しやすくなります。

発達した積乱雲の近づく兆し

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- 大粒の雨や『ひょう』が降り出す

急な大雨に注意

- 1 すぐに水辺から離れる
- 2 浸水した場所に注意する
- 3 地下道は、特に注意する

雷に注意

- 1 雷鳴が聞こえたらすぐ避難する
- 2 建物や自動車の中へ避難する
- 3 木や電柱から4m以上離れ、姿勢を低くする

竜巻に注意

- 1 頑丈な建物の中へ避難する
- 2 屋内でも窓や壁から離れる

2
水
害
編

2
水
害
編